

陸上クラブ紹介 No.20

長野東高校陸上部

部訓「感謝の心」を胸に

開校36年を迎えた長野東高校陸上部の歴史は、現在長野陸協顧問の依田良春先生、現長野工業高校の鈴木文雄先生方の熱心なご指導により、確実に実績を積み重ね、県内外に「長野東高校」の名を馳せ、優秀なOBの方々は現在も長野陸協で活躍をされています。しかし、そのような歴史の中で、近年は専門的な指導者がいなくなったことによって、徐々に部員数の減員と活動が不活発になってきていたと思います。

平成18年に長野東高校で陸上競技を通して、高校生活の充実と人間形成を図りたいという意欲あふれた生徒たちが入学をするようになったことをきっかけに、部員数も増えていき、それに伴い競技成績も徐々に向上を見せてくれました。

平成18年に何年振りかわかりませんが、1年生の小田切亜希がインターハイ出場以来、4年連続でインターハイへ出場を果たし、同時に国体にも4年連続で県代表として出場。平成19年には県高校駅伝で初優勝を果たしてから連続で全国高校駅伝に出場をさせていただき、今年も3年連続出場と全国入賞を目標に励んでいます。

平成19年に世界ユースに西澤千春、平成20年にはアジアクロカン銅メダル、世界クロカンに小田切亜希、今年の世界ユースにおいて7位入賞の鳥羽詩織と3年連続4大会に日本代表選手を送り出した



ことは、県立の普通高校としては「快拳」と自負をしています。

長野東高校の現在の陸上部の活動は、他の高校とは大きく違ったことがあります。それは、短距離・跳躍・投てきブロックは、西内先生、黒岩さん、山田先生、島田トレーナーの方々の情熱あふれた指導により、日々の活動を実施しています。縁あってボランティアとして指導をいただいている先生方には本当に感謝の思い一杯です。また、長距離女子は川中島町の河川敷での活動を常としており、学校の枠を越え、まさに地域の中での高校生部の活動がなされています。

今後も、部訓の「感謝の心」を競技面のみならず、学校生活でも忘れることなく、陸上競技を通して、人間の成長を図れるよう活動を継続し、現役時代の恩返しとして、将来陸上競技協会で活躍してくれる人材が多く育ってくれることを願っています。

長野東高校 陸上部顧問 玉城良二



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

平成21年9月26日

発行所 長野市陸上競技協会
発行人 内山了治
編集人 田島康彦

ユニバーシアード

◆◆ ユニバー 女子1/2マラソン 優勝 ◆◆



私は大学に進学を決めた時に持った大きな目標が2つあり、そのうちの1つが今回経験させていただいたユニバーシアードに出場することでした。

出場が決まった時はとても嬉しかったのですが、それと同時に物凄く不安になり、思うように練習ができなくなってしまい、試合当日もあまりいい状態とは言えませんでした。

しかし、スタートしてからは開き直って集中を絶対に切らさないようにしたら、いつの間にか先頭を走っていました。そして、ゴール直前に浮かんだのは監督のことでした。

今回、貴重な体験の機会をいただき、優勝まですることができたのは、自分が本当に周りの人に恵まれていたからだと思います。たくさんの方々に応援していただき、帰国した時も多くのお祝いの言葉をいただきました。

更にいつもそばで支えてくれているチームの仲間、今まで指導して下さった先生方や監督がいてくれたからこそ、今回の結果があります。ありがとうございました。

今回の経験は、一生の宝だと思うので、決して無駄にせず、今後長野県を代表する選手としてしっかり結果が残せるよう更に努力していきます。

城西大学 女子駅伝部 齊藤千聖

長野東高校 3年 鳥羽詩織

★世界ユース大会に参加して

7月上旬に、イタリア・ブレッサノーネで行なわれた世界ユース大会の女子5000mWに日本代表として出場させて頂きました。

今回は、初めての海外遠征でとても長期間の遠征でした。その上、選手団の中に知り合いはほとんどいなくて不安が大きかったのですが、とても熱心で親切なスタッフの方々や仲間思いの選手に囲まれて、イタリアに入ってから、ほとんど不安もなく大会を迎えることができました。

ブレッサノーネはとても落ち着いた雰囲気の中で、気候もとても涼しく過ごしやすかったです。

しかし、競技場にはサブトラックがなく、メイントラックは練習では使用できず、1番近くの競技場まではバスで片道40分以上かかりました。普段、日本で大きなレースのある競技場には、サブトラックがあるのが当たり前になっていて、改めて自分達は恵まれた環境で競技をやらせて頂いているんだと感じることが

できました。レースでは、最初のオーバーペースが響き、思うようなレースができませんでした。自己ベストを出せていればメダルに手が届いたという悔しさもありますが、これが自分の力だったというのをしっかりと受け止めて、今後に生かしていきます。

今回、世界ユース大会に出場させて頂いて、走っているだけでは経験できない貴重な経験をさせて頂きました。

この経験を今後の競技に生かし、更に上のレベルで戦えるように努力していきます。ありがとうございました。



世界ユース大会

栄章受賞者祝賀会

H20年度(財)日本陸上競技連盟安藤百福記念章、(財)長野市体育協会スポーツ振興功績表彰、長野陸上競技協会指導者功績章および特別功績章を受賞された皆様の祝賀会が、去る8月23日(日)市内「福建菜館 東口飯店」において会員29名が出席し開催された。受賞された方々の栄誉を讃えるとともに、喜びを分

かちあう楽しいひとときでした。受賞者は会報第25号に掲載済みですのでご参照下さい。



長野市陸協新部長紹介



村田修一総務部長



矢野清隆経理部長

長野市陸協のホームページ開設のお知らせ

現在、長野市陸協の活動については会報「動き」でお知らせしておりますが、多くの競技者や市民の皆さまに知ってもらうために、陸協のホームページ開設の準備を進めています。ホームページには陸協の紹介、各種大会の要項、会員の皆様へのお知らせを掲載する予定です。また、大会申込み受付などにも利用していく予定です。

情報システム部長 渡辺誠一

ホームページのアドレスと代表メールアドレスは以下の通りです。ホームページは携帯電話からもご覧頂けるように準備を進めており、会報が発行される頃には形になってきていると思います。こういう情報が知りたい!などのご要望をお寄せ頂ければ幸いです。アドレス: <http://nrku.jp/> メール: info@nrku.jp

第25号の訂正「受賞者一覧 安藤百福祈念賞」→「受賞者一覧 安藤百福記念賞」

編集後記

この夏、1冊の本を読んだ。「夏から夏へ」佐藤多佳子著。日本陸上男子リレーの4人のメンバーに密着し、歴史的快拳を達成するまでの軌跡を記したノンフィクションものである。

このリレーメンバーの1人でもあり、今や日本を代表するトップスプリンター塚原直貴選手。塚原選手は、高校3年次インターハイの100m・200mで悲願の2冠を達成。その塚原選手も高校時代「何度もやめようと思ったし、退部届けも書いたし、でも、自分が陸上を好きでやりたいという気持ちを裏切れなかったのだ

歯を食いしばってやってきた」と当時を振り返っている。また、「将来は、日の丸を背負いたい」との夢を持ちながら、幾多の苦難を乗り越え、北京オリンピックでは、400mRで銅メダルを獲得している。その陰には、指導者・家族など多くの関係者からの支えもあり、大きな力となっている。

長野市からも日本を代表する選手が育つことを願いながら、できる限り選手に良い環境で競技ができるよう常日頃から心がけたい。

広報部長 田島康彦

SHINANO MATE

ATHLETIC UNIFORM
しなのメイト 株式会社

〒989-0606 城科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE (0268) 81-1336
F A X (0268) 81-1337

★全国小学生陸上競技交流大会に出場して

スポーツコミュニティクラブ東北 大豆島小学校 6年 松橋大夢

8月28日・29日に横浜の日産スタジアムで全国大会がありました。僕は6年男子100mに出場しました。去年は5年100mで準決勝までしか進出できなかったのですが、今年は8位入賞を目指して練習しました。

結果は、予選3着12秒68、準決勝4着12秒67で決勝には進めませんでした。すごく悔しかったけど、初めて会った長野県の選手、コーチや普及部の先生方が応援してくれたので気持ち良く走ることができました。優勝は

鹿児島の人で11秒96。ものすごく速いけど、いつかどこかの大会と一緒に決勝で走りたいと思いました。

来年は中学生になるので、今年全国大会に行った長野県の選手達とジュニアオリンピックに行きたいです。そして、他の県の選手で話をした人達にも会いたいと思います。



全国小・中学大会

★全国大会に出場して

県大会の優勝校のみが全国大会に出場できるリレー。過去2年連続優勝というプレッシャーや、なかなか記録が伸びない焦りと戦いながら、チームの皆で練習に取り組んできました。本校では朝練習から全力で走るため、疲れきって友達と無言で更衣室に向かう毎日でした。そして迎えた県大会。決して万全とはいえないチーム状態でしたが、0.01秒という僅差で優勝し、3連覇を成し遂げることができました。また、個人種目のハードルでも標準記録を突破することができました。このように、チ

信州大学教育学部附属長野中学校 3年 瀧澤彩一
ムや自分が最高の走りができたのも、共に苦しい練習に取り組んできた仲間が存在が大きいと思います。全国大会では、出場した3種目すべてで予選を突破できず、全国の壁の厚さを痛感しました。悔しい思いもあるし、正直心残りもあります。しかし、このような思いも、仲間とその地を訪れ走ったこと、トップレベルの走りを生で見たことと共に大きな財産となっています。このような貴重な経験ができたのは、先生、家族、仲間、先輩を始め多くの方々のおかげです。ありがとうございました。

全国高専大会

★第44回全国高等専門学校陸上競技大会

この度全国高専大会において、お陰様で、長野高専は2位という過去最高位の成績を収めることができました。



7月の関東信越高専大会では競技運営など大変お世話になり、同時に激励やご声援をいただきありがとうございました

長野高専 電子情報工学科 5年 原弦太郎
いました。皆様のご指導ご協力に感謝申し上げます。本大会は日本陸連主催にもかかわらず高専生同士のマイナーな大会ですが、中には日本選手権、学生選手権入賞者やインターハイ選手もあり、白熱した闘いとなりました。また、例年になく各校のレベルが拮抗したため、学校対校得点が分散し最後まで結果のわからない試合でした。一つひとつの競技が終わる毎に不安と期待が高まり、1600mリレーが終わったの最終結果、皆が驚き感激しました。最高に暑い夏となりました。

★世界&全国大会出場者(長野市関係)の成績(7月~8月末)

- 第25回ユニバーシアード陸上競技大会 [7/7~12 ベオグラード/セルビア]
女子1/2マラソン 優勝 齋藤千聖 (城西大・長野日大高出身)1時間13分44秒
- 第6回世界ユース陸上競技選手権大会 [7/8~12 プレッサノーネ/イタリア]
女子5000mW 7位 鳥羽詩織(長野東3) 23分28秒76
- 平成21年度全国高等学校総合体育大会 [7/29-8/2 奈良市鴻ノ池]
【入賞者】
男子110mH 5位 早川恭平(長野吉田3)14秒66(-1.7) : 準決勝14秒44(+2.0)長野県高校新
女子3000mW 6位 鳥羽詩織(長野東3) 13分35秒04 (以下予選敗退)
【男子】110mH 太田和彰(松代2)15秒06(-1.0)
走幅跳 深沢宏之(松代2)7m00(+1.9)
三段跳 深沢宏之(松代2)記録無し
ハンマー投 富井博輝(須坂園芸3)52m04
やり投 井口拓(長野日大3)49m79
【女子】400m 中田優菜(長野吉田3)58秒38
3000m 中村早(長野2)9分38秒11
加藤未有(長野東3)9分48秒98
渋澤真理(長野東3)10分02秒83
- 平成21年度全国中学校体育大会 [8/21~24 大分市九州石油ドーム] 入賞者なし
【男子】200m 松下悦久(広徳3)予9位
110mH 中野直哉(附属長野3)予4位
走高跳 尾崎皓一(三陽3)記録無し
400mR 附属長野: 上松暉、根岸光星、渡邊純、中野直哉 予5位
【女子】200m 新井美貴子(裾花3)予4位
瀧澤彩(附属長野3)予8位
1500m 玉城かんな(川中島1)予12位
100mH 瀧澤彩(附属長野3)予5位
400mR 附属長野: 外谷理緒奈、杉山結理佳、瀧澤彩、佐藤茉莉奈 予6位
- 第25回全国小学生陸上競技交流大会 [8/28~29 神奈川・日産スタジアム]
男子100m 松橋大夢(長野スポコミ東北6) 12秒67(+0.5)準決4位
- 第44回全国高専陸上競技大会 [8/18~19 宮崎県総合]
総合男子2位、女子7位(以下長野高専入賞者)
【男子】原弦太郎 400m2位、800m1位(3連覇)
宮坂優介 800m6位、1500m8位
奥原達朗 5000m7位、1600mR5位
清水裕貴 円盤投4位、やり投6位
【女子】宮澤留美 100m2位、800m6位

★選手との出会いに感謝

去る7月に開催された世界ユース陸上プレッサノーネ大会に本校3年生の鳥羽詩織が日本代表(女子キャプテン)として出場させていただく機会を与えていただき、大会では生活環境や競技環境の違う中で7位入賞という結果を残せ、代表としての最低限の責任を果たしてくれました。

鳥羽は駅伝で京都を!の想いをもって長野東高校に入学してきました。しかし、入学時に先輩や同級生に走力で彼女を上回る選手が多くいたため、何気なく「ちょっと歩いてみる」程度に思い、競歩練習をさせてみたところ、「これはいける!」の手ごたえを初めてやらせたときに感じました。その時、本人に「今年の国体(秋田)では少年Bで入賞する」と言った覚えがあります。1年先輩に世界ユースオストラバ大会に出場した西澤千春が在籍していた好条件のもと、春の段階から国体を目標に取り組みました。そのため、県内大会でなく、5月の日本ジュニアの石川大会をデビュー戦に添えて、「歩型が全国審判レベルで通用

★インターハイに出場して

今年私は最後のインターハイを迎えました。1年次は5位、2年次は7位と2年連続で入賞することができ、今年はもちろん3年連続入賞並びに、優勝を目標として頑張ってきました。ですが、春先の故障の影響もあって入賞はしたものの5位という結果に終わってしまいました。「もっと上までいけたのに」という思いは確かにあ

全国高校大会

★インターハイ参戦記

7月29日~8月2日に奈良市鴻ノ池陸上競技場で開催された奈良インターハイに参加させていただきました。本校からは、早川恭平(3年・110mH)、中田優菜(3年・400m)の2名が出場しました。

大会初日の女子400m予選に出場した中田は、当日までの調整も順調にいき、自己記録更新を目指してレースに臨みましたが、残念ながら予選敗退となりました。

大会最終日の男子110mHに出場の早川は、一昨年5位、昨年7位と連続入賞を果たしており、今年は3年連続入賞と全国制覇を目指しての大会となりました。

今年の男子110mHは注目選手が多く、ハイレベルな

松代高校2年
太田和彰

第20回

ホープさん

松代高校2年
深沢宏之

「インターハイに出場して」

自分は今回110mHで奈良インターハイに出場しました。レース内容は、スタートは良く、しかし終盤焦って10台目をぶつけて失速し、ゴールしました。結果は自己ベストは出せただけで、2着に入れず、タイムでも0.01秒およばず、目標の準決勝進出もできずに予選落ちして、とても悔しいレースになってしまいました。

しかし、インターハイで得たものはたくさんありました。インターハイの雰囲気やハイレベルなレースを体験できました。なにより焦らず自分を信じて走ることを学びました。この経験を今後活かしていきたいです。

今後の抱負は、10月に行なわれる日本ユースで入賞し、北信越新人で優勝を狙いたいと思います。そして県高校記録を出して、来年のインターハイでは入賞したいと思っています。

「インターハイを終えて」

自分はインターハイに2種目出場しました。2種目のうち、1種目は走り幅跳びに出場し、結果は予選落ちで、もう1種目は三段跳びに出場し、こちらも予選落ちしてしまい、2年のインターハイは悔いが残る夏になってしまいました。得るものも多かったです。

その中でも一番印象に残ったものは、自分に自信がもてなかったことです。北信越が終わったあとインターハイに向けて、人一倍練習をしたつもりでした。けれども、競技が始まりピットに立つと、精神的に弱い部分がでてしまい、今までやってきたことに自信がもてなく、予選落ちにつながってしまいました。

今回は、このような経験ができ、これからの試合などに生かしていき、来年のインターハイは100mと幅跳び・三段跳びの3種目で、三冠を狙っていきます。